

日本の介護現場の“困り事”と“ニーズ”

未来すまいる研究所
by Share Support Corp.

株式会社シェアサポート

大内 英之

本日の内容 (Contents)

- 1 会社と自分紹介 (self-introduction)**
- 2 困りごとの“正体” (The real cause of the trouble)**
- 3 “何が”欲しいのか (What we really want)**
- 4 最後に (Finally)**

自己紹介 (self-introduction)

 株式会社シェアサポート	設 立	2008年2月
	所在地	日本 埼玉県 (Japan Saitama Prefecture)
	代表取締役	大内 英之 (ouchi hideyuki)

【事業内容 Business Description】

■ 介護業界に特化したコンサルティング (Elderly Care Consulting)

- ◎ 運営指導 (Management Support)
- ◎ 事業再生 (Corporate Restructuring)
- ◎ 人材研修 (Staff Training)
- ◎ 介護ロボット・ICT機器導入支援
(Care Robot Introduction Support)
- ◎ 介護ロボット・ICT機器開発支援
(Care Robot Development Support)
- ◎ 業務改善伴走支援
(Operational Improvement Support)



“ヒント”は必ず
ここにある

—現場課題を想定した機器展示—

生産性が向上する

**介護ロボット・ICT機器・介護用具
展示会**

無料

入退場
自由

同時開催
セミナー

課題の8割が行きついた解決への“打ち手”
生産性向上に向けた施策と
“100”の現場課題を分析して見えたこと
—問題解決の突破口はここに—

事前予約制
先着50名 (1事業所5名まで)

14:00～
15:00

講師 未来すまいる研究所 代表 大内英之
令和5年度 厚生労働省「介護ロボット開発、実証、普及プラットフォーム構築事業」
(埼玉、千葉、茨城圏内)
社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる部 介護ロボットアドバイザー

2024年10月25日 (金)
場所：船橋市中央公民館 5 階 第3・第4集会室
時間：10時00分～16時00分

主催：船橋市



現在 56歳



27年前



29歳



介護職員として勤務

常に“介護現場”のとなりで
コンサルティングを実践

困りごとの“正体” (The real cause of the trouble)



◎機能訓練



◎記録



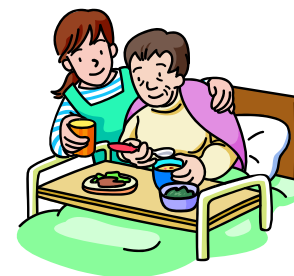
◎見守り



◎入浴介助



◎排泄介助



◎食事介助

**介護職員の困りごと
= 仕事の追われる**

■本当は・・・



◎機能訓練



◎記録



◎見守り



◎入浴介助



◎排泄介助



◎食事介助

定例の仕事をこなすのであれば
“仕事に追われる”ことはない

事件発生



“追われる”ことになる



事件って何？



転 ぶ

体調不良

怒 る

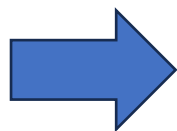
■ 事件が起こるとどうなるか



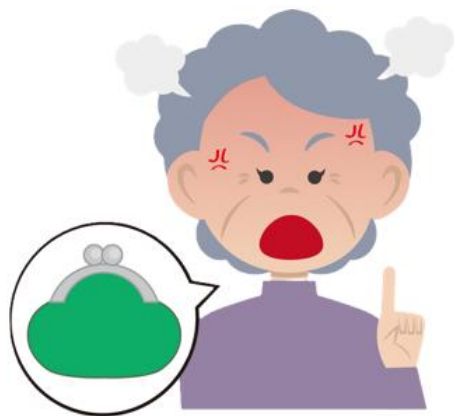
転ぶ



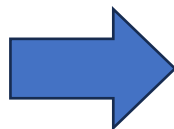
具合悪い



受診同行



怒る



1対1対応



仕事に追われる

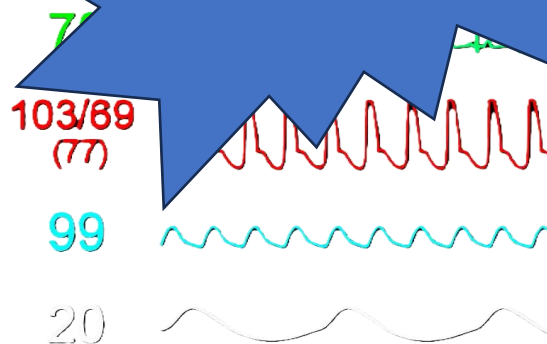
転ぶ

立つ姿勢に
なったら通知

センサーマット

具合悪い

数値異常に
なったら通知



バイタルセンサー

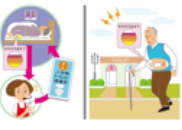
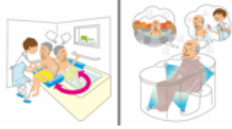


怒る



支援ツールなし

“大きな
困りごと”

移乗支援（装着） 介助者のパワーアシストを行う装着型の機器 	排泄支援（排泄物処理） 排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置の調整可能なトイレ 	排泄支援（排泄予測・検知） 排泄を予測又は検知し、排泄タイミングの把握やトイレへの誘導を支援する機器 	介護業務支援 介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等への介護サービス提供に関わる業務に活用することを可能とする機器・システム 
移乗支援（非装着） 介助者による移乗動作のアシストを行う非装着型機器 	排泄支援（動作支援） ロボット技術を用いてトイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器 	見守り（施設） 介護施設において使用する各種センサーや外部通信機能を備えた機器システム、プラットフォーム 	機能訓練支援 介護職等が行う身体機能や生活機能の訓練における各業務（アセスメント・計画作成・訓練実施）を支援する機器・システム 
移動支援（屋外） 高齢者等の外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器 	移動支援（装着） 高齢者等の外出をサポートし、転倒予防や歩行等を補助するロボット技術を用いた装着型の移動支援機器 	見守り（在宅） 在宅において使用する、各種センサー等や外部通信機能を備えた機器システム、プラットフォーム 	食事・栄養管理支援 高齢者等の食事・栄養管理に関する周辺業務を支援する機器・システム 
移動支援（屋内） 高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレへの往復やトイレ内での姿勢保持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器 	入浴支援 入浴におけるケアや動作を支援する機器 	コミュニケーション 高齢者等のコミュニケーションを支援する機器 	認知症生活支援・認知症ケア 認知機能が低下した高齢者等の自立した日常生活または個別ケアを支援する機器・システム 



2024年6月から 介護ロボット重点開発項目に追加



怒る

“本当に
痛手”



ベテラン職員が
対応する場合が多い

- ◎ 介護職員が仕事に追われるのは
事件が発生するから
- ◎ 事件内容は
「転ぶ」・「体調不良」「怒る」が多い
- ◎ 「怒る＝認知症ケア」を
支援する機器がない

何が“欲しい”のか (What we really want)



“予兆”を
教えて欲しい





センサーマット



バイタルセンサー



怒る

発生している/可能性が高い段階
で通知されても対策は限られる



“走り回る”という結果になる

■ 事例

◎ 離床センサーによる記録数の調査（事業所独自調査）

概要	全入居者数	離床センサー利用者数	調査期間
	90人	34人	2025/1/6～1/12（1週間）
条件	・離床センサーとナースコールは連動している。 ・通知種別を集計し離床センサーから通知数を把握した。		

■ 結果

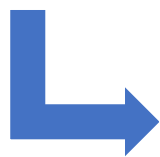


全ナースコール数：2710回/週



うち離床センサーからの通知数：2072回/週

76.5%

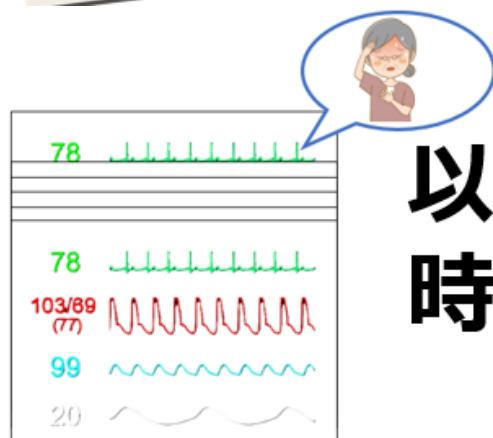


すぐ確認しなければならない
（ほとんど夜勤帯）

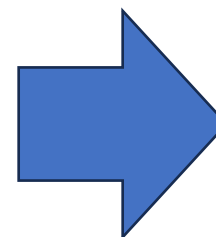




寝付けない/
モゾモゾしている



以前、具合が悪くなった
時と同じデータ

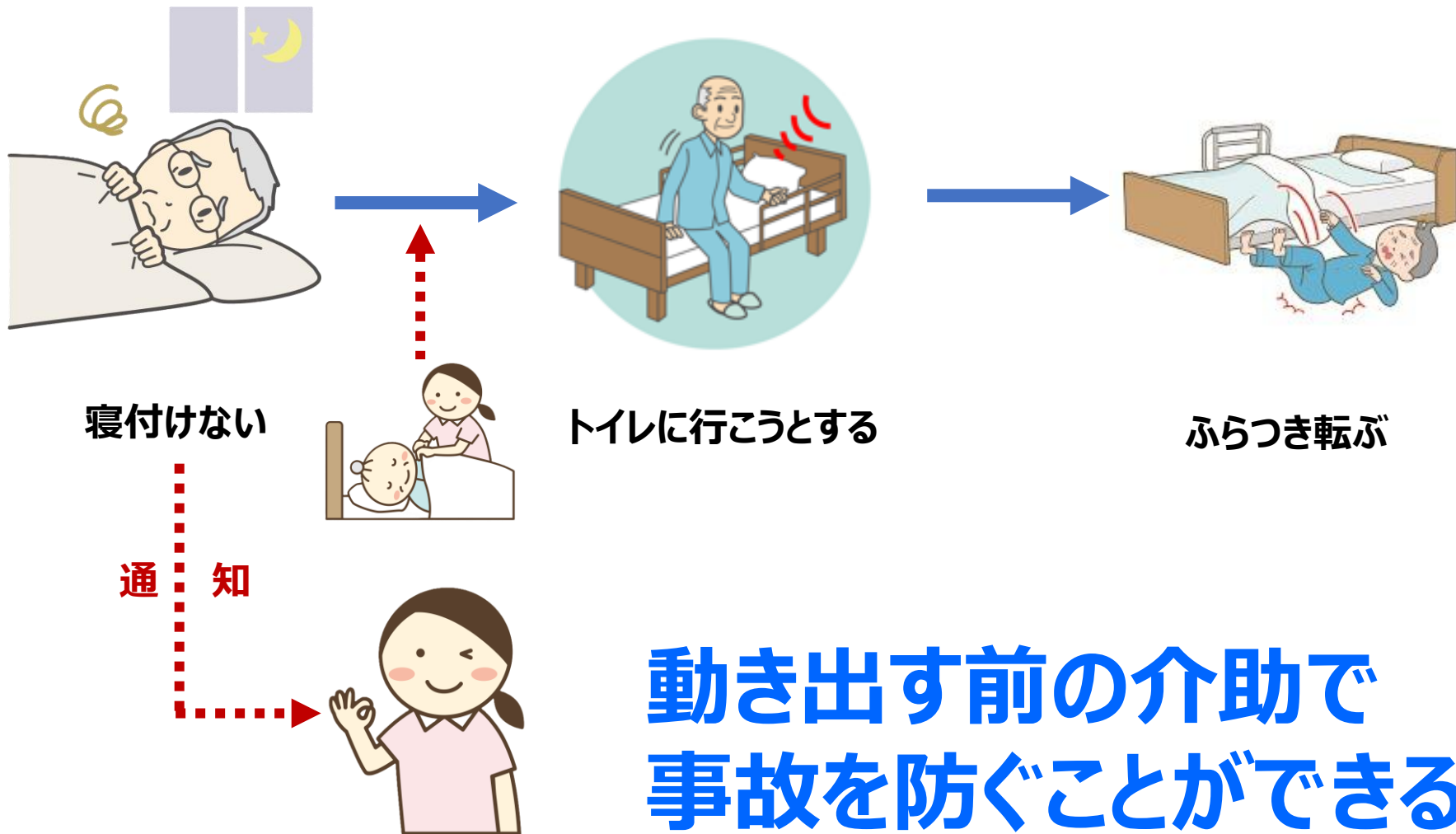


通
知



怒り出す前の
パターン行動

● よくありがちなパターン

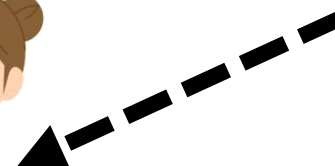


検
知



通
知

負担軽減へ



- ◎ 欲しい情報は“予兆”である。
- ◎ 予兆を知らせるためには検知データの『分析』がポイントである。
- ◎ 予兆を知り、事故前に対処することで職員の負担が軽減する。

最後に (Finally)

◎ 普段、現場職員と話していることを伝える機会を頂き感謝しております。

◎ 介護ロボット・ICT機器も充実してきたように見えますが、まだまだニーズに応えるものにはなっていません。

◎ これからも現場ニーズを伝えてより良い製品が誕生するようにお手伝いをしていきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。
Thank you for your attention.